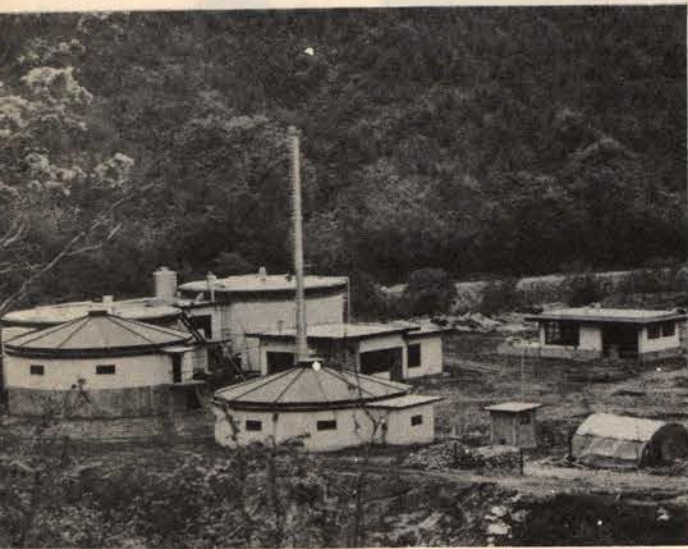


40 kl のし尿も 2 台(リヤカー)の乾燥肥料に 近代的なし尿処理場完成



し尿処理場は大和田町国道のそばにある

処理施設の役割り

嫌気性醗酵法による、し尿の単独処理。
加温二段式35℃30日の処理方式により、1日40klを処理する。

- 投入槽
投入槽、貯溜槽からなり、し尿は投入口から投入槽に入れ、破砕機をへて貯溜槽に一時貯溜された後、投入ポンプにより、自動的に消化槽に投入される。
なお、投入室には、悪臭を除くため、オゾン発生装置がある。
- 消化槽
破砕機で破砕されたし尿を、室内温度35℃のこゝで、さらに、化学処理のもとになる種汚泥とともに十分にかきまぜ、どろどろのものにする。
これを、さらに、第1・第2消化槽の間にある遠心分離室で、遠心分離で水分を抜き肥料となって、出される。
- 曝気槽
遠心分離機で除かれた水は、こゝで2時間空気にさらされる。
- 最初沈澱槽
空気にさらされた汚水は、10倍の稀釈水と返送水でうすめ、有機成分の含まれる率を低くし、下に沈んだ沈澱物は、もう一度消化槽に返し、水は次の高速散布ろ床に送られる。
- 高速散布ろ床
小石、ブロックと約2m積み、そこに回転散布機で水をまき、水を浄化する。
- 最終沈澱槽
浄化された水は、さらにこゝでもう一度沈澱物を取り除く。
- 塩素減菌室
最後に、水はこゝで塩素減菌されて、無害な水となって、留萌川に流され30日の処理が終る。

近代的な都市づくりの基礎となる、留萌市のし尿処理場(衛生センター)が、市内大和田町に完成しました。

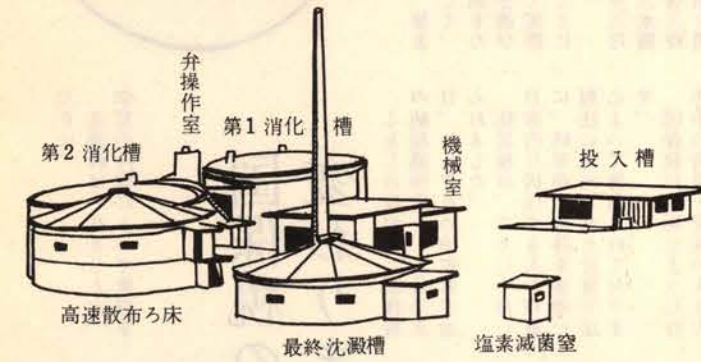
いままでは、各家庭からのし尿処理は、留萌市にとって一番頭の痛い問題でしたが、このし尿処理場ができたことにより、機械や化学的な処理により解決されることになりました。

このし尿処理場は、総額約七千万円(うち国の補助金一千七百九十万円)をかけ、昭和三十三年、三十九年度の二カ年度で建てられたもので、道内では十八番目です。

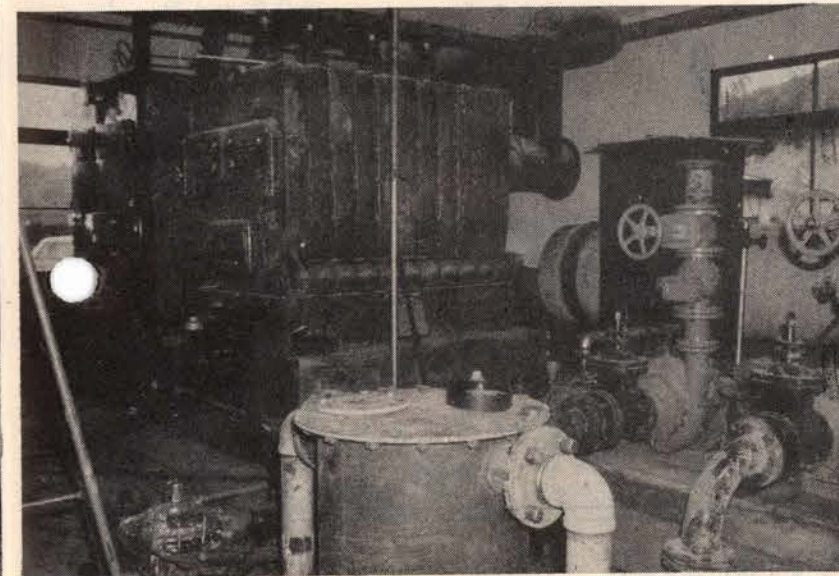
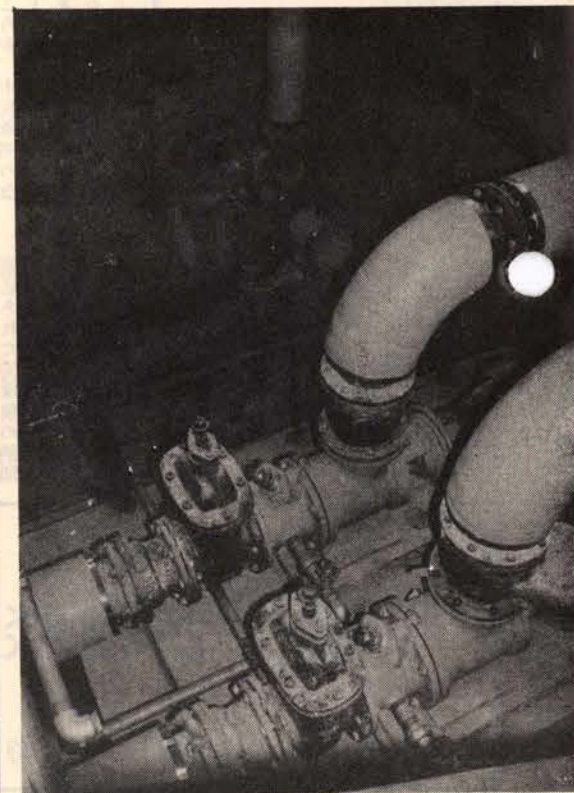
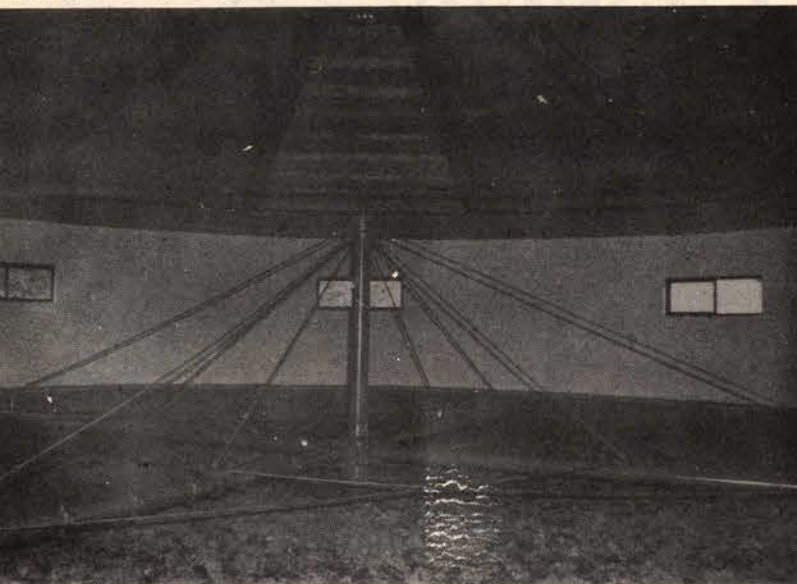
現在、留萌市で集められるし尿の量は一日平均三十五klにのぼりますが、このし尿処理場は、一日四十klの処理能力を持っています。

六月末には試運転、七月から投入をはじめますが、四十klのし尿も、この処理場では、機械と化学的な処理によって、きれいな水とリヤカー二台ほどの乾燥した良質の肥料に処理されます。

し尿処理場略図



高速散布ろ床 約2m積まれた小石、ブロックの上に水がまかれ浄化される



機械室
し尿処理場の心臓部である。数多い機械、一時の休みも許されない一貫した作業は、この部屋にある配電盤ボイラー、その他の機械で動かされる。
なお、消化槽の温度をあげるため、処理過程で発生するガスと重油が使われる。

破砕機
この機械が設置されている処理場は、道内でもあまりない。